

平成20年度第1回山形県漁業就業者確保育成協議会  
議事録概要

日 時：平成20年6月3日（火）15：00～16：30

場 所：庄内総合支庁水産課3階大会議室

1. 挨拶（産業経済部長）

昨年度の県漁協の水揚金額は、残念ながら目標を若干下回りました。このような厳しい現状を反映して、県漁協組合員数は35人減少しており、60才以上が60%と高齢化も進んでいます。なお、これに対し平成19年度新規就業者は6人でした。

このような状況を踏まえ本協議会が立ち上がった訳で、昨年度3回の協議会が開催され、2つのテーマについて検討されました。水産業全体の振興を図り、「収益性の高い水産業を目指すことが、新規就業者を増やすうえでも重要。」との方向で議論がされており、今後、水産物の売り方や効率的な漁獲方法を考えていく必要があると思われまます。水産業はおいしい水産物を国民、県民に提供するのが大きな目的であり、消費者、流通業者、生産者の3者にとってより良い方向を目指していきたいと考えますので、協議会運営も含め、今後も皆様の御協力をよろしく申し上げます。

2. 協議

1) 平成19年度就業者確保育成関連事業実施結果

事務局より平成19年度関連事業の実施結果を説明した。

◇主な意見は以下のとおり

- 一度就業して辞めた方の意見を把握することが重要。

2) 平成20年度就業者確保育成関連事業実施計画

◇事務局より平成20年度実施計画を説明した。

◇主な意見は以下のとおり

- 水産高校生の体験漁業に、新規就業者や一般就業希望者も一緒に受け入れてはどうか
- なり手が少ないし、なり手があっても受け入れ態勢として（底びき網漁船等）乗組員の数が決まっているので雇えない。タイミングよく乗組員が高齢で辞めたりしないとなれない。小さい船で独立するのであれば、底びき網漁船で独立するよりはハードルが低いですが、供給とニーズが合わない問題がある。漁がある時期であれば雇えても、漁のない時期は雇えないといっ

た経営面の問題もある。

- 漁業が儲かればいくらでも人を雇うことができる。今現在は魚価安、燃油高騰で「生き残っていけるかどうか」という状態である。
- 漁業士会役員の中では、漁業者を増やす取り組みについて「相互扶助で金を出してまで減船をした経緯があることを考えて慎重に進めて欲しい。」といった意見がある。

### 3) 協議会テーマについて

#### ①「新たな販売システム」について

事務局から説明をした。

◇主な意見は以下のとおり

- スーパーに地魚が並んでいない現状を認識して欲しい。スーパー店頭での高い値段に驚かされる。1箱数百円で買っていった魚が1匹数百円で売っている。このような現状は、売ることを仲買人に任せっきりにしてきたせいでもある。こういった取り組みは良い取り組みと思うが、県がすることではなく、漁協とか漁業者自身がすべきことではないかと思う。また、この取り組みからスーパーで魚が売れるようになるのは良いが、結局もうかるのはスーパーと流通業者で漁業者の所得向上に結びつかないのではないか。漁協・漁業者の経営が厳しい状況まできており、何をすべきか分からないが、何かをしなければならぬと思っている。

◇ベースは漁業者と漁協が利益を得ることであり、伝道師を通じて消費者に顔の見えるシステムの試験実施を進めることとなった。

#### ②「漁船の有効利用」について

事務局から説明をした。

◇主な意見は以下のとおり

- 同じ漁業種で同じ漁法ですぐ売れる船であれば、こういう場を使わなくても売れてしまう。そうでない船であれば、情報を乗せて欲しいということはあると思う。
- これからやりたい漁業をするには、今の船の使い勝手が悪いので別の船を購入する時、代船する時、廃業するので現有の船を売る場合等にこのコーナーを使う可能性はある。
- ホームページ化してはどうか。

#### ③平成20年度の新たな検討テーマについて

事務局から説明をした。

◇主な意見は以下のとおり

- 事務局案としてテーマを「研修制度の充実」にしたいとのことだが、本協議会は現場の漁業者に来てもらって話を聞ける場である。事務局案のテー

マについては、事務的に詰めることで結論が出ることと思う。せっかくの協議会という場では、もっと話が広がるようなテーマを検討すべきと感じる。

- 研修手当の部分は国に制度化してもらうのが良いと感じる。
- 底びき網の話になるが、市内に住んでいて船に乗りたいと言う人があっても、急に出漁が決まったりすることが日常的にあるので、雇う側としても考えてしまう。
- 底びき網の場合出漁が午前1時、2時。普通の人には寝ている時間。その時間に集まってから、出漁か休むか決めることになる。「風が吹いているので休む」と決めてしばらくしてから「風がやんだのでやっぱり出漁」なんてこともある。だから、地元（船の近く）に住むことが必要になってくる。

◇協議の結果、今後の協議会で検討テーマは随時受け付けることとし、今回の事務局の提案である「研修制度の充実」は協議会テーマとはせず、研修に関する法令上の問題等を事務的に整理する。研修手当の予算化については農業の例を参考に研究していくこととなった。